

教育支援だよりは、先生方と支援教育に関する「こんなこと良かった!」「役に立った!」といった情報共有を目的に発行しています。瀬谷養護学校の取り組みを多くの方に知ってもらうためのおたよりです。

～まっちゃんの今月のつづき～ 「受け止める側の苦勞?に思いをさせてみる」

「実態に合った指導」をコミュニケーションの視点から言うと、その子の受け止める力を見極めているかどうか? ということになるのではないかと思います。

「喋れないけれど言われたことは、だいたいわかる」という評価は本当にそうでしょうか?

言われた時の相手の目線、口調、態度(指さしも含め)、周りの様子、いつもと同じ場面、聞こえてくる中の知っている単語、などを総動員して

「理解しているように見えるだけ」ということがよくあります。

クラスメイトとことばでやり取りをし、一見、仲良くすごしているような児童生徒にも同様なことがあります。(中にはわからないことを知られたくないために、わかっているフリをすることもあり、さらに誤解されやすく、見えにくかったりするのです。)

個別課題で二語文の理解がやっとかな…という子どもたちに、修飾語や接続語、さらには「しっかり」とか「きちんと」など、

場面によって求められる行動が変化する単語が混入しているとしたら…

「伝えることばは短くシンプルに」と言われるのはなぜでしょう?

子どもたちの側に立ってみると、相手からのわからない投げかけを、自分が獲得できる情報から頭を使って類推する作業をし続けるのは、かなりしんどいのではないのでしょうか。

それは、知らない外国語の中で四苦八苦する我々の姿に近いものがあるかもしれません。

「ことばを選ぶ」ことは、その子の心に寄り添うことにもつながり、

そこからが学習のスタートである と思うのでした。

(教育支援チーム)

「伝わりやすいことば・伝わりにくいことば」

コミュニケーションに困難さを抱える子どもにとって、彼ら彼女らに努力を求めるよりも、
私たち伝える側の伝え方で解決できることが多々あります。

むしろ、ことばを多く操れる私たちの伝え方を変える方が、楽で近道かもしれません。
特に自閉症と言われている人たちは、「抽象的な概念が苦手」「耳から入る情報処理が苦手」
「同時に多くの情報をキャッチできない」という特徴があることが多いです。

この特徴を考えただけでも、彼ら彼女らがことばを理解するための苦勞が見えてくるようです。

★伝えたいことのみを わかりやすい（具体的な動きがみえるような）

＜単語に置き換える＞

- 食事をする→食べる
- 掃除をする→ほうきで履く
- 片付ける→ロッカーに入れる
- きちんと折る→角と角を合わせて折る
- しっかり座る→背中を伸ばして座る

★「こそあどことば」は避ける

- これを見て
- そこに置いて
- あっちへ行って
- そんなことしないで

★ひとつの文に伝えたいことひとつ

- チャイムが鳴ったらエプロンをつけて食堂に椅子を持って行ってね（多すぎ！）

★作業をしながら指示をすることは控える。

（指示を出す時は まず手を止めてから）

- 字を書きながら先生の話聞く
- 作業をしている最中に次の指示を聞く

★やめてほしいことは、してほしい行動に置き換えて伝える

- 走らない→歩いて
- 机の上に乗らない→机から降りて

熱心な先生ほど、子どもたちにかける「ことば」が多くなる傾向があります。

一度に多くの先生から指示を出されて動けないこともあります。

ことばかけが「騒音」にならないように気をつけたいものです。

～お知らせ～

瀬谷養護学校ホームページ内「教材教具集・教育支援だより」のサイトより
教育支援だよりのバックナンバーをご覧ください。

「具体的に」

「短い言葉で」「肯定的に」